

WM Report

Knowledge
Management
Society of
Japan

VOL. 8

2000 December



CONTENTS

トップインタビュー

ナレッジ リーダー フォーラムに出席して

研究部会の活動報告

第4回年次大会ご案内

KM関連図書のご案内

役員

インフォメーション

トップインタビュー

「先見性」「独創性」「機動性」 の充実を目指して

アサヒビール株式会社
代表取締役会長 瀬戸 雄三



21世紀は「知の時代」と言われています。私たち企業人にとっても、新しい時代を迎えて自らの可能性を切り拓いていくためには、この「知の時代」に備えることが重要です。但し、一口に「知」といっても、知恵、知識、知性、知能、知慮など様々な意味づけがあり、一律に定義づけることはなかなか難しいことのように思います。

企業経営という視点に立てば、「知」の源泉である「人」との関係で捉えるべきではないでしょうか。「知」は経営資源の大切な要素であるとする昨今の論調も、「企業は人なり」という本来的な経営観の再認識と言えます。その意味で、来るべき「知の時代」を乗り越えるためには、人間というソフトパワーをいかに引き上げていくかが、本質的な課題であると考えます。

例えば、今世紀の最後に、企業経営にとって最もインパクトの大きかったIT革命は、これまでコストダウンや生産性の向上を実現するための技術的な側面が強調されてきました。しかし、これからは、人と情報技術の融合、組織体系の統合といった新しいテーマが取り込まれていくことになるはずで

す。こうした新しい課題に直面している企業経営において、今日、主要な機能を果たしつつあるのがナレッジ・マネジメントです。現在は、やや一過性のブームとして導入されていることも垣間見れますが、戦略と人材の統合をマネジメントする新しい手法として、今後ますます重要性を増していくと思います。

当社がナレッジ・マネジメントの手法を本格的に導入し始めたのは99年からです。すでに欧米企業では実践的な議論がされていた時期ですが、それまで当社では情報インフラの整備活用を主体として取り組んできました。

高度情報化時代に適応した新しいネットワークづくりを、トップダウンで始めたの

が95年であり、96年には社員一人一台のパソコン体制を構築し、独自の情報システムを稼働しました。97年には営業活動における情報力と提案力の強化を図るために、各種の情報・データを装備した携帯パソコンを担当者全員に配置しました。

さらに、市場やお客様の声をいち早く経営に取り込み、迅速に対応していくために、営業現場で収集してきた情報や、会社に寄せられるお客様からのご意見、ご要望などを、トップをはじめ全社員がリアルタイムに共有できるイントラネットを完成させました。

こうした技術的なインフラ整備を完了させた後に、さらに企業の競争力を高めるには、情報・知識の共有と活用を統合的に経営システムの中に組み込んでいくことが不可欠であると考え、ナレッジ・マネジメントの手法を導入し、「情報・知識の共有と活用による組織力強化」を次の課題としました。

ナレッジ・マネジメントの基本的な理解からスタートしたプロジェクトは、単に技術的な解決にとどまらず、情報・知識に関する蓄積、移転、評価などの複数の目的を達成しようと考えました。具体的には、営業活動における付加価値の向上を目標に、営業部門のポータルサイトとして「営業情報玉手箱」という貯蔵庫を構築し、誰でも簡単にアクセスできる環境をつくりました。また、全国の主要事業場にテレビ会議を導入し、より直接的な知識の移転を実現しています。さらには、更新される知識を公正に評価し、多様なベストプラクティスを継続的に生み出せるような管理体制をとっています。

現在は、営業関連での成功事例を生かして、全社的なナレッジ・マネジメント手法の展開を進めています。ここ1,2年の間には、各部門における情報、知識のインフラ整備がほぼ完成する見通しです。

しかし、先述したように、ナレッジ・マネジメントは、人材・組織の活性化と深く結びついており、情報技術の高度化とともに人材の高度化を追求すべきです。すなわち、いかに個人の知的創造力を高めていくかが大きなテーマとなります。組織内のメンバーが、過去の経験・常識にとらわれることなく、変化を先取りできる「先見性」、従来にない異質で新しい発想ができる「独創性」、異質なアイデアを素早く実行できる「機動性」を同時に持つことが大切です。

現在のナレッジ・マネジメント手法の展開が、単に「知識の共有」で終わるのでは、本質的な競争力アップには繋がらないと考えます。これからは、社内外の様々な「知識」をいち早く吸収し、それらを独創的な「知恵」に変えることが大切であり、「知識の共有」から「知識の競争」へとマネジメントを転換することが必要です。多様な個性が切磋琢磨し、知恵を競い合うような組織風土が、結果として、企業の競争力を引き上げていくことに繋がると考えます。こうした「先見性」「独創性」「機動性」の充実こそが、21世紀に飛躍するための重要な鍵ではないでしょうか。

ナレッジ リーダー フォーラムに出席して

学会理事長

森田 松太郎

平成12年11月14日、富士ゼロックス株式会社主催によるナレッジ リーダー フォーラムが東京のホテルオークラ 曙の間において開催された。フォーラムは9:00に始まり17:30に終了した。フォーラムの内容は次のようであった。

まず、富士ゼロックス株式会社会長 小林 陽太郎氏のウエルカム スピーチで始まり次のようなプログラムで進行した。

9:50 ~ 10:30

KNOW アライアンスとKDI

カ ー ラ ・ オ デ ー ル APQC社長
フ ラ ン ク ・ ダ フ ィ ー DEGW社 CBE,創業パートナー
ス ー ザ ン ・ ス タ ッ キ ー ストラテジック・プラクティス・グループCEO
ロ リ ー ・ チ ェ イ ス テレオス社 マネージング ディレクター
野 中 郁 次 郎 一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授
紺 野 登 (株)コラム代表
木 川 田 一 榮 KDIコーポレート・ナレッジ・ランサー

10:50 ~ 12:20

ナレッジ・リーダーの能力と実践

カ ー ラ ・ オ デ ー ル
ロ リ ー ・ チ ェ イ ス
繁 田 寛 昭 日本ロシュ(株) 代表取締役社長
野 中 郁 次 郎

13:20 ~ 14:30

ナレッジ・コミュニティの発見と学習

野 村 恭 KDIWOWリサーチ・エクスプローラ
カ ー ラ ・ オ デ ー ル
島 田 洋 之 東京海上火災保険(株) IT企画部
遠 藤 宏 (株) NTTデータ 開発本部 企画部担当部長

14:50 ~ 16:00

ナレッジ・ワークプレイスのデザインと効果

フ ラ ン ク ・ ダ フ ィ ー
ス ー ザ ン ・ ス タ ッ キ ー
潮 田 邦 夫 (株) NTTドコモ 取締役
紺 野 登

16:00 ~ 16:10

21世紀「知」への旅

庄 野 次 郎 富士ゼロックス(株) 常務執行役員

16:30 ~ 17:30

パーティー

出席者は約 200 名で大変盛会であった。その概略は次のようであった。
会場はホテルオークラであったが、会場の曙の間は船のイメージでデザインされていた。定刻会場にセットされていた帆をあげ、知の大海へ船出するという趣向であった。
まず、富士ゼロックスの小林会長から「K レポリューション(現在は知による革命の時代であるという認識)」について印象的なスピーチがあり、ついで上記のスケジュールによって発表と討論が行われた。
日本におけるナレッジ・マネジメントは短期間の間に研究が進んだという印象をもったが、中でも「ナレッジ・コミュニティの発見と学習」は実証的な調査研究であり、当学会にとっても興味があり、かつ、非常に参考になる発表であったのでその一部について次にレポートしたい。

この発表は富士ゼロックス社を含めて日本の代表的な会社10社の参加をえてナレッジ・マネジメントに関するアンケートを実施した結果を纏めたものである。中核になったのは富士ゼロックス社に新しく設けられたKDIグループ(ナレッジ・ダイナミクス・イニシアティブ・グループ)である。

詳細については第4回年次大会において当日の発表者である富士ゼロックス社の野村恭彦氏から報告が予定されている。野村氏から学会に次のような調査速報がよせられている。

ナレッジ・アセスメントは、経営を「知識」の観点から捉えなおし、企業経営者とナレッジ・ワーカーのそれぞれに対し、その取り組みの実態を目に見えるようにするためのプログラムである。

一人ひとりのワーカーに対する3日間の詳細なアンケート調査に加え、CKOにあたるエクゼクティブに対してもインタビューを実施した。このプログラムは、既に実績のある、KIRO(Knowledge Innovation Research Organization 知識革新研究機構)の「SECI」と「知識資産」に関するナレッジ・オーデット、DEGW社のタイム・ユネリゼーション・サーベイを組み込んでいる。

今回実施したパイロット調査には、国内のエクセレント企業10社が参加し、各企業からそれぞれ約100人、合計1186人という、知識経営としては非常に大規模なものになった。調査の結果、各企業にとっての価値の源泉となる知識が、現在は、経験やブランド等の暗黙知がマジョリティであるのに対し、将来は、そのまま暗黙知が重要だと考える人と、システムの変革が重要だと認識する人に大きく二分された。

もう一つのファインディングは、ワークスタイルが、知識経営を推進・浸透と強い相関を示したことである。特に、自律性が高く、人とのインタラクションの多いワーカー(Nomadワーカーと呼ぶ)が、知識の提供度・吸収度、コミュニティ活用度において、圧倒的に他のワーカーを凌駕している。Nomadワーカーの割合が高くなれば、多くの知識が外から流れ込み、社内のコミュニティや場に新たな風を吹き込んでいる。

この調査の結果、各企業がフォーカスすべき知識の方向性、そしてそれを実現するための改革の方向性に関する示唆がえられた。

研究部会活動報告

第3研究部会第2回研究会

- 日 時 平成12年1月26日(水)
- 場 所 軽子坂MNビル
インテリジェントロビールコ C会議室
- 座 長 一柳 良雄 氏
- 出 席 者 12名
- 内 容 1. イーキャリア株式会社の事業について
2. 今後の第3研究部会の進め方について

第1研究部会5月定例研究会

- 日 時 平成12年5月16日(火)
- 場 所 飯田橋レインボービル1階A会議室
- 座 長 一條 和生 氏
- 出 席 者 18名
- 内 容 KMツール、
「PowerEgg」について講演と実演
ディサークル株式会社
常務取締役 夏 山 氏
取締役技術部長 松 下 氏
営業部 柳 谷 氏

第1研究部会3月定例研究会

- 日 時 平成12年3月6日(月)
- 場 所 飯田橋レインボービル1階A会議室
- 座 長 一條 和生 氏
- 出 席 者 27名
- 内 容 1. 企業における知的資産管理の現状と課題
美濃谷 晋一 氏(郵政省 郵政研究所
情報通信システム研究室 研究官)
2. KMをめぐる最新の動向:
経験経済とネット
一條 和生 氏(一橋大学助教授)
3. 本年度活動予定など他

第3研究部会第4回研究会

- 日 時 平成12年5月17日(水)
- 場 所 軽子坂MNビル
インテリジェントロビールコ D2会議室
- 座 長 一柳 良雄 氏
- 出 席 者 9名
- 内 容 1. 新メンバー紹介
2. SKWアンケートの活動スケジュール概要
3. 「シニア・ナレッジ・ワーカーに関する
アンケート調査」用紙レビュー
4. 今後の進め方
5. その他

第3研究部会第3回研究会

- 日 時 平成12年3月15日(水)
- 場 所 軽子坂MNビル
インテリジェントロビールコ C会議室
- 座 長 一柳 良雄 氏
- 出 席 者 8名
- 内 容 1. 高齢者雇用推進のため労働者
~企業がとるべき対応
続木 氏(さくら総合研究所
環境・高齢社会研究センター)
2. 今後の第3研究部会の進め方について

第5研究部会ミーティング

- 日 時 平成12年6月15日(木)
- 場 所 軽子坂MNビル
インテリジェントロビールコ D1会議室
- 座 長 堀 治人 氏
- 出 席 者 17名
- 内 容 1. 第5研究部会の活動内容について説明
2. 役割分担及びスケジュールの決定

第1研究部会平成12年7月定例研究会

- 日 時 平成12年7月4日(火)
- 場 所 軽子坂MNビル
インテリジェントロピールコ D会議室
- 座 長 一條 和生 氏
- 出席者 8名
- 内容 1. 「変革期のナレッジマネジメント」
井上 仁 氏(ベルヒュード研究会代表)

第3研究部会第5回研究会

- 日 時 平成12年7月12日(水)
- 場 所 軽子坂MNビル
インテリジェントロピールコ C会議室
- 座 長 一柳 良雄 氏
- 出席者 9名
- 内容 1. SKWアンケート結果の評価
2. 今後の取組

第5研究部会ミーティング

- 日 時 平成12年7月12日(水)
- 場 所 軽子坂MNビル
インテリジェントロピールコ D1会議室
- 座 長 堀 治人 氏
- 出席者 17名
- 内容 1. 第5研究部会の活動内容について説明
2. 役割分担及びスケジュールの決定

第4研究部会第1回研究会

- 日 時 平成12年7月31日(月)
- 場 所 軽子坂MNビル
インテリジェントロピールコ C会議室
- 座 長 徳谷 昌勇 氏
- 出席者 6名
- 内容 1. 第4研究部会発足について
2. 今後の取組について

第5研究部会ミーティング

- 日 時 平成12年7月31日(月)
- 場 所 軽子坂MNビル
インテリジェントロピールコ D1会議室
- 座 長 堀 治人 氏
- 内容 1. 今後の取組について

第1研究部会平成12年9月定例研究会

- 日 時 平成12年9月11日(月)
- 場 所 軽子坂MNビル
インテリジェントロピールコ D会議室
- 座 長 一條 和生 氏
- 出席者 16名
- 内容 1. 知識創造時代のリーダーシップ
「ITとリーダー革命」の問題背景
一條 和生 氏(一橋大学助教授)
2. 今後の活動など連絡

第5研究部会ミーティング

- 日 時 平成12年9月12日(火)
- 場 所 東海銀行総合研究所 升本ビル7F会議室
堀 治人 氏
- 座 長 1. MAKE JAPAN サーベイ
- 出席者 アンケート内容の最終確認、
- 内容 アンケート先リストアップ
2. 「最も賞賛される企業になるために」
(仮称)の執筆出版について
3. 今後の活動など連絡

第3研究部会第6回研究会

- 日 時 平成12年9月26日(火)
- 場 所 軽子坂MNビル
インテリジェントロピールコ C会議室
- 座 長 一柳 良雄 氏
- 出席者 7名
- 内容 1. 今後の第3研究会の進め方
2. シニア・ナレッジ・ワーカー(SKW)
に関するインタビュー報告

第5 研究部会ミーティング

- 日 時 平成12年10月20日(金)
- 場 所 東海銀行総合研究所 升本ビル7F会議室
- 座 長 堀 治人 氏
- 内 容 1. MAKE JAPAN サーベイ
アンケート依頼先について
2. Webアンケートの立ち上げについて他

第2 研究部会ミーティング

- 日 時 平成12年11月20日(金)
- 場 所 軽子坂MNビル
インテリジェントロビールコ D会議室
- 座 長 杉浦 忠 氏(座長代理)
- 内 容 1. アサヒビール企業訪問と実地研修研修
スタッフの決定
2. 事前情報と質問票について
3. これからの部会運営について

第1 研究部会平成12年11月定例研究会

- 日 時 平成12年11月21日(火)
- 場 所 軽子坂MNビル
インテリジェントロビールコ D会議室
- 座 長 一條 和生 氏
- 出 席 者 16名
- 内 容 1. 講演「知恵市場の展開」
...アメリカおよび我が国で展開され
ている知識の売り手と買い手の間の
知恵の取引市場であるネット上のナ
レッジマーケット(知恵市場)の現
状と展望について説明する。
山崎 秀夫 氏
(野村総合研究所 経営情報コン
サルティング部 主任研究員)
2. 質疑応答その他

第2 研究部会アサヒビール企業訪問

- 日 時 平成12年11月29日(水)
- 場 所 アサヒビール本社16階プレゼンルーム
- 座 長 杉浦 忠 氏(座長代理)
- 内 容 1. 当社KMの現在まで
~アサヒビールにおけるKMの実践
IT戦略部長 奈良 篤 氏
2. 営業玉手箱の紹介
IT戦略部 福士 綾子 氏
3. 技術部門知恵袋の紹介
IT戦略部 山田 透 氏

第2 研究部会ミーティング

- 日 時 平成12年12月13日(水)
- 場 所 飯田橋レインボービル1階D会議室
- 座 長 杉浦 忠 氏(座長代理)
- 内 容 1. アサヒビール企業訪問の報告について
2. 次回訪問先(日本ロシュ)発表、
今後の部会運営について

第4 研究部会第2回研究会

- 日 時 平成12年12月15日(金)
- 場 所 軽子坂MNビル
インテリジェントロビールコ B会議室
- 座 長 徳谷 昌勇 氏
- 出 席 者 4名
- 内 容 1. リスクマネジメントと内部監査RM
による付加価値
2. 情報に関する危機管理などについて

第4回年次大会のご案内(予定)

- 日 時 : 平成13年2月13日 (火)
- 場 所 : 経団連会館 11階国際会議場
- 総合司会 : 総合司会 高梨 智弘
- 統一論題 : 「新世紀の知」

● ● ● ● プログラム ● ● ● ●

9:00 ~	受付開始
9:30 ~ 9:40	開会の辞 学会会長 奈良 久彌 (三菱総合研究所相談役)
9:40 ~ 9:50	開会宣言 第4回年次大会長 山本 信孝 (三和総合研究所会長)

午前の部

10:00 ~ 11:00	基調講演 松田 昌士 (東日本旅客鉄道株式会社会長)
11:00 ~ 12:00	研究報告(1) 石川 昭 (青山学院大学大学院教授)
12:00 ~ 13:10	昼 食 昼食時に理事会を開催いたしますので役員の方はご参集ください。

午後の部

13:10 ~ 13:30	年次総会 司会/コメンテーター : 古山 徹 (日経QUICK情報)
13:30 ~ 14:30	研究報告(2) 「第5研究部会MAKEJAPANについて」 堀 治人 (経営品質総合研究所 代表)
14:30 ~ 15:30	研究報告(3) 山崎 秀夫 (野村総合研究所 経営情報コンサルティング部 主任研究員)
15:30 ~ 16:00	休 憩
16:00 ~ 16:30	研究報告(4) 「第3研究部会SKWについて」 袖山 裕行 (公認会計士)
16:30 ~ 17:30	研究報告(5) ナレッジ・ワークプレイスのデザインと効力 野村 恭彦 (富士ゼロックス経営総合研究所 ナレッジ・デザイン・イニシアティブグループ 研究員)

17:30 ~ 17:40	閉会の辞 花村 邦昭 (日本総合研究所相談役)
18:00 ~ 19:00	懇親会

KM 関連図書のご案内(第 7 回)

1. 社内のナレッジ・マネジメント 中経出版 森田 松太郎 00 / 10

ナレッジ・シェアリングの実施方法を、実例を紹介しながら具体的に論じている実践書である。ナレッジマネジメントの詳細な実践的な手引き書であり、本書の前著である『図解 ナレッジマネジメント』の姉妹編である。

2. ハーマンモデル 東洋経済新報社 ネットハーマン著 高梨 智弘 監訳 00 / 10

適材適所を可能にする方法論を人の4つのタイプに基づいて、リーダーシップの在り方、創造的開発と経営革新の進め方、効果的な個人能力開発などの解説によって具体的に示している。

3. ナレッジサーバのすべて 東洋経済新報社 西 高弘 00 / 10

「ナレッジサーバ」の活用を軸に、ナレッジマネジメントを実践的に解説している。

4. 実践・ナレッジマネジメント 日経BP企画 NTTデータナレッジ□ マネジメントグループ 00 / 08

ナレッジを活用してコア・コンピタンスをより強固なものにする方法をNTTの例を取り上げて説明している。

5. 知の経営革命 東洋経済新報社 花村 邦昭 00 / 06

経営とは「知的連鎖」の送出であるとの観点から、知価経営の本質、方法を理論的に考察している。

6. ブランド経営 同友館 寺本 義也・□ 原田 保編著 00 / 03

成熟社会におけるブランド戦略の重要性を解説することによって、新しい競争戦略の再構築を提言している。

7. ナレッジマネジメント 東洋経済新報社 アーサーアンダーセン・□ ビジネスコンサルティング 99 / 12

8. インテレクチュアル・キャピタル 日本能率協会マネジメントセンター リーフ&マイケル、□ 高橋 透訳 99 / 11

企業の知力を測るナレッジマネジメントの各種指標を財務面を中心に提起している。

9. 知力創造社会 産能大学出版部 レナード他著、□ 小林 薫訳 99 / 10

新しい社会を展望し、21世紀には『行動・反省・学習モデル』が企業戦略の確立に資することを提言している。

役員

< 2000年12月15日現在 >

会 長	奈 良 久 彌	(株)三菱総合研究所 取締役相談役
副 会 長	阿 蒜 達 雄	(株)さくら総合研究所 取締役社長
副 会 長	花 村 邦 昭	(株)日本総合研究所 相談役
評 議 員 会 議 長	亀 井 正 夫	(住友電気工業(株) 相談役)
評 議 員 会 副 議 長	山 本 信 孝	(株)三和総合研究所 会長
理 事 長	森 田 松 太 郎	(日本アーサーアンダーセン研究所理事長)
副 理 事 長	嶋 口 充 輝	(慶応義塾大学 教授)
専 務 理 事	高 梨 智 弘	(株)日本総合研究所 理事
専 務 理 事	山 内 悦 嗣	(住友銀行 社外取締役)
専 務 理 事	一 條 和 生	(一橋大学 助教授)

アドバイザー・ボード

カーラ・オデール	(アメリカ生産性品質センター 理事長)
ディック・ミゼール	(前アーサーアンダーセン マネジング・パートナー)
竹 内 弘 高	(一橋大学大学院国際企業戦略研究科研究科長)

評 議 員

石 井 威 望	(東京大学名誉教授)
大 森 康 彦	(株)ディアイエス取締役会長)
唐 津 一	(東海大学開発技術研究所教授)
カール・ベッカー	(京都大学総合人間学部助教授)
河 村 有 弘	(日経 B P(株)専務取締役)
坂 本 吉 弘	((財)日本エネルギー経済研究所理事長)
椎 名 武 雄	(日本アイ・ピー・エム(株)最高顧問)
杉之尾 宜 生	(防衛大学校教授)
関 隆 明	(NECソフト(株)代表取締役社長)*
S・ホロニック	(アーサーアンダーセンパートナー)
田 中 榮	(株)大和総研社長)
張 富士夫	(トヨタ自動車(株)社長)
常 盤 文 克	(花王株式会社 代表取締役会長)*
富 沢 秀 機	(日本経済新聞社取締役事業局長)
トム・ケリー	(Knowledge Enterprise 理事長)
野 中 郁次郎	(北陸先端科学技術大学院大学教授)
橋 本 綱 夫	(ソニー(株)相談役)
浜 田 広	(株)リコー会長)
ボブ・ヒーブラー	(アーサーアンダーセンパートナー)
小 原 暉 章	(株)情報通信総合研究所代表取締役社長)
福 地 茂 雄	(アサヒビール(株)社長)
松 本 滋 夫	(日本電気(株)常務取締役)
峯 島 利 之	(つくば銀行社長)
宮 原 明	(富士ゼロックス(株)副会長)
師 岡 孝 次	(東海大学工学部名誉教授)

理 事

阿 片 公 夫	(株)NEC 総研社長)
生 田 哲 郎	(生田・名越法律特許事務所弁護士)
石 崎 忠 司	(中央大学商学部教授)
一 柳 良 雄	(株)一柳アソシエイツ 代表取締役社長)
石 川 昭	(青山学院大学大学院教授)*
伊 藤 進一郎	(住友電気工業(株)代表取締役副社長)
岩 本 繁	(朝日監査法人理事長)
上 野 守 生	(亜細亜証券印刷(株)社長)
内 田 和 成	(ボストン・コンサルティング・グループ副社長)
大久保 寛 司	(日本アイ・ピー・エム(株)MDQ推進担当)
岡 本 正 耿	(株)MPC 代表取締役)
尾 原 重 男	(株)三菱総合研究所常務取締役)
加護野 忠 男	(神戸大学経営学部長)
木川田 一 榮	(富士ゼロックス(株)コーポレート事業部ナレッジ・デザイン・イニシアティブ部長)
国 領 二 郎	(慶応義塾大学大学院経営管理研究科助教授)
中 村 高	(株)リコー取締役)
境 健一郎	(かんき出版(株)代表取締役社長)
住 田 笛 雄	(センチュリー監査法人代表社員)
高 橋 均	(朝日アーサーアンダーセン顧問)
田 坂 広 志	(多摩大学教授)
谷 口 恒 明	((財)社会経済生産性本部理事)
徳 谷 昌 勇	(成蹊大学経済学部教授)
村 田 守 弘	(アーサーアンダーセンパートナー)
矢 澤 洋 一	(日本IR協議会事務局長)
山 田 英 夫	(早稲田大学アジア太平洋研究センター教授)

監 事

浅 野 純 次	(株)東洋経済新報社代表取締役社長)	富 尾 一 郎	(川澄化学工業副社長)
---------	--------------------	---------	-------------

(* 次回総会で正式に就任予定 / 氏名は五十音順)

Information

部会員を新規募集します。

第2研究部会、第4研究部会および国際部では部会員の新規募集を予定しております。募集の詳細につきましては追ってご連絡いたします。

■ 新会員を募集しています

当学会は、ナレッジ・マネジメントに興味を持ち、研究意欲を有する法人・個人であれば、特に入会資格を制限しておりません。学会の活動にご参加いただける方がいらっしゃれば、是非参加を呼びかけてください。申し込みに必要な書類一式は、当学会事務局からご郵送いたしますので、必要に応じてご請求下さい。

■ お申し込み方法

法人会員：「法人入会申込書」に必要事項をご記入の上、下記の当学会事務局宛までFAXにて送付して下さい。折り返し請求書、登録内容の通知書、会員名簿、研究年報及び最新の会員報を送付させていただきます。なお、法人会員は窓口担当者を合計2名まで登録できます。

個人会員：「個人入会申込書」に必要事項をご記入の上、下記の当学会事務局宛までFAXにて送付していただき、その後に申込書に添付された郵便振替用紙にて会費をお振り込み下さい。ご入金を確認後、登録内容の通知書、会員名簿、研究年報及び最新の会員報を送付させていただきます。

* 請求書・領収書は原則として発行しておりません。

■ 入会金・年会費について

法人会員は年会費100,000円(入会金なし)を下記の銀行口座へお振り込み下さい。

個人会員は入会金5,000円、年会費5,000円を下記の銀行・郵便振替口座へお振り込み下さい。法人・個人ともに年会費の期間は入会された年の12月31日までです。

申込書送付先：日本ナレッジ・マネジメント学会

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3-1-10 田中ビル4F (株)日本ビジネスソリューション内

TEL 03 - 3270 - 0020 FAX 03 - 3270 - 0056

E - Mail kms@gc4.so-net.ne.jp

年会費振込先：

1. 銀行口座 口座人名：日本ナレッジ・マネジメント学会 理事長 森田 松太郎

さくら銀行 日本橋営業部 普通 7073689 住友銀行 日本橋支店 普通 1085878

三和銀行 室町支店 普通 3884012 東京三菱銀行 東京営業部 普通 3412822

2. 郵便口座 口座人名：日本ナレッジ・マネジメント学会

日本橋三井ビル内郵便局 00120 - 3 - 12323



2000 DECEMBER

発行日 / 平成12年12月29日

発行者 / 日本ナレッジ・マネジメント学会

編集人 / 石崎忠司

製作 / (株)アイビジネスサービス

個人会員 417名、法人会員 59社 (平成12年8月1日現在)

日本ナレッジ・マネジメント学会 事務局

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3-1-10 田中ビル (株)日本ビジネスソリューション内

TEL 03-3270-0020 FAX 03-3270-0056

この冊子は再生紙を使用しています